

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101735		
法人名	(有) プレム・ダン		
事業所名	グループホーム凜として		
所在地	岡山市中区原尾島4-4-19		
自己評価作成日	令和 4年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JijyoCd=3390101735-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和5年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホーム凜として」は利用者様1人1人の好きな事、今できる事に働きかけその人らしく暮らせるように支援しています。又職員は日々の関わりを大切にしながら利用者様に寄り添い信頼関係を築きニーズに沿ったケアに努めています。日々の支援の中での気付きは職員間で共有し生活の質の向上に向上に努め心に寄り添う介護を目指しています。食事にこだわりを持ち季節の旬を取り入れたメニューや行事食を提供し食事を楽しめる工夫をしています。感染症対策にも力を入れており特にコロナ感染対策には力を入れており、抗菌、防除機能のある加湿噴霧器を設備しています。併設の小規模多機能事業所とも連携、協力して職員のスキルアップの為の研修を定期的開催し介護技術の向上、資格取得に取り組み、介護の質の向上を図りたいと考えています。今年もコロナ感染拡大防止に置いて、行事企画又は外部の研修参加は見合わせています。引き続きのコロナ禍でご家族様面会の規制の中ガラス越しで会われたり、お電話等で御本人と会話されたり、職員が様子の報告をさせていただいてます。凜通信の様子報告もしており、時には個人の御様子等は写真をプリントし郵送で送らせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が勤務を終えて帰る時は「行ってきます」。出勤の時は「ただいま」と利用者に声をかけ挨拶をしている。ここは皆にとっても家であり家族であるという考えで、このような挨拶をしているとの管理者の話聞いて、利用者が寂しい思いをしないようにとの配慮が嬉しく、まさに利用者にとってはここが「第二の家」になっていると実感した。法人のケア理念でもある「本人が主人公の生活」を基本に、9名全員を「えこひいき」する。即ち一人ひとりにしっかり関わり主役にすることを実践している。同敷地内に隣接する「ちっちゃな多機能事業所おかげさん」と連携しながら、地域密着型事業所の良さを活かして地域の中でしっかり根を降ろし、幅広い活動を展開していこうと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は意識して日常的に取り組めるように、ホールに掲示している。申し送り、又は業務中で、定期的に振り返り取り組む機会を持ち、実践に繋げるように努めている。	ホームの理念は常に職員の目に付く場所に掲示して、意識付けを図るようにしている。まずは職員が「楽しくしている事で利用者も楽しく過ごせる」を大前提とする姿勢は、第5章の「もえる集団になる」の項目を具現化していると思う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々との挨拶、夏祭等で交流を図るようにしていたが近年コロナ禍の為参加出来ないのが現状である。。ゴミステーションの清掃も順番で回ってきている。時に隣の小規模多機能おかげさんを覗いている。	まだまだコロナが収束しない中での地域との交流は以前のように出来ていないが、散歩の途中で出会った近所の人との挨拶や、近くの公園で地域の人と挨拶や会話を等、出来る範囲で交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか出来ていないのが現状ですが、運営推進会議等で資料を渡したりと地域内におけるホームへの理解が高まるように努力している。民生委員の方の協力も頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催。地域の民生委員、家族様・包括支援センター職員・近隣住民が参加しサービスの向上に繋げるよう努めていたが近年はコロナ感染拡大防止にて書面にて意見交換しています	2ヶ月に1回、書面ではあるが運営推進会議の議事録を市へ提出している。隣接する「ちっちゃな多機能事業所おかげさん」と「グループホーム凜として」の合同開催で、活動報告や利用者の状況等の情報共有をしている。	議事録を見ると、合同開催している小規模多機能事業所は運営推進会議の中でヒヤリハット・事故報告もしているの、グループホームも日常的なリスクや現状を正しく理解してもらう為にも、報告した方が良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には事業運営等について分からないことがあると相談し助言を受けている。事業所指導課にも相談している。福祉事務所とも連絡をとっている。	市の担当者へは運営推進会議の議事録を提出してホームの現状を理解してもらおうと共に、何か気になる事があればいつでも気軽に相談でき、助言や指導をしてもらっているの、日頃から良い連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で委員会を作り、拘束についての勉強会を開き、拘束についての理解を深め、拘束をしないようにしている。又拘束をしないケアが当たり前と認識している。年4回委員会を開催している。今はコロナ感染拡大防止の為書面にて意見交換している	新規入所の方はホームに慣れないうちは、帰宅願望も出るが、目配り、気配りを欠かさないように注視しながら気分転換に向けた適切な言葉かけをするように心がけている。安全対策の為、時には日中も玄関を施錠する事がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する理解と日々業務にあたっている。施設内の勉強会、業務中での意見交換と、申し送りで全職員が周知し、問題事案があれば話し合い防止に努めている。年4回委員会を開催している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、定期的に後見人の方が面会に来られて話す機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要説明事項にて説明し、理解を得るようにしている。また、質問には謙虚に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①面会時に家族からしっかり話を聞くようにしている。 ②運営会議においては現在コロナ禍の中書面にて報告し意見、質問等聞いている。 ③意見箱を玄関に設置している。	H30年2月に「凜として通信」第1号を発行して以来、R4年12月で第30号となった。日常の様子や活動を写真満載で2ヶ月毎に家族にも送付しており、県外の家族や海外にいる娘さんが大変喜ばれたそうだ。面会時や電話等で家族から意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日中の業務内において、意見を交換をおこなっている。新人職員にも意見を出してもらい反映している。今年もその時々でコロナ感染拡大防止の為、集まったり集まらなかったりで個々に意見交換を行っている。	毎月のミーティングや連絡帳等で情報共有や意見交換をしている様子が記録からもよく分かる。職員からの提案や要望も気軽に話し合える雰囲気、ホームの運営や業務改善に向けて話し合い、社長に提案して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得による手当等独自のシステムがあり向上心が持てるように整備されている。介護職員処遇改善手当も評価システムを導入し支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修・講演等はコロナ感染の為不参加である。運営推進会議時、行政・後見人等の専門的な方の意見を聞くことが出来るように職員に伝えている。時期に応じ施設内での指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者については同業者と情報交換の機会があるが、スタッフレベルでは継続的な実現ができていない。今後の取り組みとしてコロナ感染防止に努めながら行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や連絡を取る中でしっかりと不安に思っていること困っていること要望などを聞き、ご本人の思いを受け取るようにしている。安心できる雰囲気づくりに努めている。勤務中、申し送り等その都度意見交換している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関わりは大切なので、家族の気持ちをしっかり聴き、要望や思いに沿った支援ができるように努力している。入居後も情報交換しながら信頼関係の構築に努めている。定期的に様子の連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の実情や要望等をもとに、必要なサービスを見極め、必要に応じて対応している。徐々に生活に馴染めるよう、本人のペースを大切に、関わりを持つように努め安心した生活を送れるよう支援する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事を作ったり、洗濯量、食器拭き等出来るところをして頂き意欲を高め、一緒に活動したり過ごす時間を増やすように努めている。近所であるが職員と一緒に散歩にも出かけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設からも状況説明、報告は来所時や電話や凧通信にて知らせている。時に御本人とも電話を代わり会話して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの影響で御家族様了承の上時間制限を設けている、知人等の方には面会は御遠慮して頂いているがガラス越しの面会はおこなっている。	場所や面会時間等の制限はあるものの、リビングの掃き出し窓からのガラス越し面会をもらっている。孫を連れて息子家族や娘家族の面会もあり、これまでの家族との絆や馴染みの関係が継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中も、自室へ戻ることがほとんどなく一人で過ごすことが少ない。利用者同士で支え合う場面も見られる。利用者間の相性を把握し状況に応じて職員が介入し利用者の相互関係が良好になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移ってもご家族の要望があれば出来る限りサポートするように努めている。またご家族の状況変化に応じ転居等の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で希望や意向が聞けるような馴染みの関係作りに努め、プランに反映するようにしている。言葉での表現が困難な場合は、様子、態度等を観察し意向を把握するように心掛けている。	日頃からよく話しかけコミュニケーションを持つ事で、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。また、介護度が中・重度の人の割合が多いので意思疎通や意向確認のやり方も職員間で検討しながらケアプランにつなげている。	個人支援記録(介護記録)の中に、利用者の発言や行動の記載が少ないので、日々の心理的、身体的変化を把握する為にも気がついた事は記録して情報共有する等、ステップアップに期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、ご家族や入居前に利用していたサービス事業者、ケアマネからも話を聞きアセスメントを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれの視点での気づきを大切に、状況の変化等を日々申し送りや記録等で情報共有し、現状の把握に努めている。変化があれば管理者に連絡としている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の業務中、申し送り時間等で話し合い、モニタリングしケアプラン作成に役立っている。本人や家族の意向や思いを取り入れ反映した計画作りに努めている。	ケアプランの意向欄からも、本人のここでの暮らし方の思いが伝わってくる。法人ケア理念の「本人が主人公の生活」が実現できるようなプラン作りをしており、利用者一人ひとりが日々楽しく生活できるように職員全員で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に記入している。身体的状態の変化は赤字で記入している。職員間で情報を共有し実践や介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかなタイムスケジュールを作成し、細かい対応は随時行ったり、必要に応じたニーズに合わせて職員が相談しながら柔軟に対応している。日々の業務中等でも話し合う様にしている。入居者のかた中心の考えである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域包括支援センターの職員、民生委員の方との情報交換を行っている。令和2年4月からはコロナの影響で関係者の方々には文書で通知、意見交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診に来てくださり、それ以外での特変にはその都度、連絡(電話)などで密に情報交換を行っている。担当の薬剤師の方とも密に連絡をとっている。	利用者全員がホームの協力医を主治医としており、月2回の往診時には薬剤師も同行している。また、必要に応じて訪問歯科も随時ある。他科受診は原則家族にお願いしているが、難しい場合は職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師と連携を図り、日頃の状況や状態の変化、緊急時は相談、連絡、対応や病院受診の必要性について指示を仰ぎ支援している。非常勤看護師とも連絡を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の対応、搬送先などもかかりつけ医と随時話し合っている。入院した場合、情報提供を早急に出来るように普段から状態変化を記録するようにしている。、保険証、薬手帳等をまとめたファイルを作り、緊急時に慌てないように心がける		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時は職員が病院へ付き添い、本人の生活状況や既往歴等を伝え介護添書でも伝えている。入院中も定期的に訪問し、情報交換を行い、病院関係者と連絡、調整を行い、早期に退院できるように支援している。	ホームの方針で看取りはしていない。医療が必要となったり重度化した場合は、医療機関への入院や特養等へ移行するケースが殆どであり、現在もターミナルや寝たきりの人はいない。しかし、出来る限りここでの生活が維持できるように最善のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えについては報告書等で日々伝えていっている。又ミーティング等での危機管理の意識向上を心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、災害時の避難場所の確認をしたり情報収集を行っている。避難訓練は年2回実施している。又疑問点がある場合、管理消防署に確認している。	今年度は、土砂災害における避難訓練、水害(洪水時)における避難訓練を実施した。1階から2階へ避難する垂直避難が主で、階段を使って全員が移動した。職員からは介助が必要な人いるので担架や布団、シーツ等の使用も必要との意見が出た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いと本人が理解しやすい言葉、使いと大きい声では呼ばないよう意識して対応している。また勤務内において日々の対応を振り返る機会を持ち、意識を深めている。	通信等に掲載する写真使用や取扱いについて、施設内での氏名の掲示、情報提供等は事前に家族の同意を得ており、個人情報の確保に努めている。また、呼称にも配慮し、信頼とコミュニケーションを図るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、本人の意向を確認しながら支援するように努めている。また状況に応じて声かけを工夫し、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に、各々が過ごし易い場所で過ごしたり、外出等のニーズに対応し、要望に添えるように支援しているが現在はコロナ感染防止の為外出は控えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容サービスを利用し身だしなみについて常に気にかけて支援をしている。職員も1人1人の整容にも時間をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューの掲示により目で見てわかる工夫をしている。利用者様のなかで出来る方は、盛りつけ、配膳、食器拭き等のお手伝いをして頂き、達成感を味わって頂いている。	開設当初から一汁五菜の食事を提供し、食器にもこだわり、食事を五感で楽しめるようにしている。お正月は重箱に入れた職員手作りのお節料理、誕生日は手作りケーキで祝う等、行事も大切にしている。本日も職員手作りの美味しい昼食をいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し摂取量の確認と確保の意識づけを実施している。利用者様の状態により食事の形態・形状を検討しその人その人に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・見守り・確認をし歯磨き、義歯の清潔の確保に努めている。夕食後には入れ歯洗浄剤を使用している。ご自身で難しい方は全面的に職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しその方の排泄パターンを把握するように努めている。同時に個々の排泄のサインや行動をみてトイレ誘導を行うようにしている。	全員がリハビリパンツにパットを使用しており、個々の排泄リズムに合わせ声かけ、誘導をしている。中には自由にトイレに行きたい人もいるので、そっと見守るようにしている。夜間用にポータブルトイレを置いている人は1名。快適に過ごせるように個々に合わせた排泄用品を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ時腹部マッサージしたり、ウォシュレット使用している。レク等で体を動かす運動もしている。必要に応じて畑クリニック、畑先生に相談し便秘薬の内服にて排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日を通じ入りたいときに実施している。意向を確認し、無理強いすることなく支援している。入浴出来ないときは清拭、衣類交換を行い、個々に合わせた物品を使用している。	週3回を基本としているが、全員浴槽を跨いで入る事ができ、介助が必要な人や、その日の気分や体調に合わせてシャワー浴にする時もある。入浴拒否のあった人も言葉かけをいろいろ工夫するうちに、今ではスムーズに入ってもらえるようになったとの事。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に、休みたい、また休息が必要だと感じた場合はゆっくり休めるように支援している。夜間、眠れない時はお話したり、暖かい飲み物を提供したりと、安心して眠れるように個別対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については服薬情報のファイルを常時確認するようにし、服薬の追加、変更、中止等があれば連絡ノート、往診記録表に記入し体調管理に努めている。状態の変化は情報共有し畑Drに報告、健康管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた作業や役割をして頂きながら、無理せず楽しんでもらえるように心掛け、気分転換にもなるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス感染防止の為外出は出来ていないが、個別対応で状況に応じて散歩等の支援をしている。	コロナ前のようなちょっとそこまですぐと気軽にドライブや外出する機会は減ったが、庭先の花壇の花にも季節を感じ、天気の良い日はホーム周辺の散歩やすぐ近くの公園に出かけ日光浴や外気浴をして気分転換をしている。家族との個別の外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の預かり金として施設で管理している。その方の能力に応じて使っているが認知症の進行に伴い御家族の了承を頂き、ほとんど職員が代わりに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援しているが電話をかけたり、かかってきた電話で話しをしたりするが、時に御本人の混乱を招くこともあるので配慮が必要である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要なものは置かないように努め、季節に応じた飾り付けも心がけている。また湿度管理にも注意をはらい除菌作用があるコアクリンを使用し加湿器で噴霧している。	殆どの方が日中はリビングで過ごしており、午前中も皆さんの歌声や会話で盛り上がっていた。広すぎず狭すぎず、ちょうど良い広さのリビングは明るく清潔に保たれており、階段の幅にもこのホームならではのこだわりがある。利用者と一緒に季節ごとに作成した壁画も展示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル席の配置を工夫したり飾り棚を置くことで共有空間の中での個々の居場所を作ることができている。気の合う方が過ごせる空間づくりも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や生活用品・趣味・小物を持って来ていただいている。居室にご家族の写真を置いたり、心地よい空間づくりに努めている。	1階に4室、2階に5室あり、全室フローリングにベッド。各居室に洗面台も設置しているので整容時に活用したり、馴染みの家具や身の回り品を置いて、落ち着いて寛げる環境作りをして快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には名札を掛け、分かりやすくしている。また安全に気を付けて入居者の動線には注意をしている。		